

履修要項

履修上の注意点

1. 進級要件

各学年末において、下の表に示す進級要件修得単位数を修得していない場合、次の高学年次へ進級し、その課程を履修することができない（岐阜薬科大学学修規程内規・第10条）。

ただし、実習科目は、その開講されている年次において修得しなければならず、修得できていなければ進級することができない。

（両コース共通）

区 分	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
進級要件修得単位数	34単位以上	77.5単位以上	118単位以上	138単位以上
通計単位数	48単位以上	89.5単位以上	128単位以上	146単位以上

単位の計算方法

授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によって計算する。

- （1） 講義及び演習については、15 時間から 30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- （2） 実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間の授業をもって 1 単位とする。
- （3） 一授業科目について講義、演習、実習のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準は、講義時間を 2 倍、演習時間を 1.5 倍、実習時間を等倍して、合計時間が 30 時間の授業をもって 1 単位とする。

成績評価

科目試験等、学修成果の評価等に関する具体的な基準は各科目の成績評価のページに示す。さらに、各科目の授業開始時に担当教員が学生に対して周知する。

科目の成績は、合格と不合格に分け、合格をさらに優・良及び可に区分する。（学則細則第3条）

●GPAの算定方法

優・良・可を、優（3点）、良（2点）、可（1点）と点数化し、

$$GPA = \frac{\text{各科目の点数（単位数} \times \text{成績点）の合計}}{\text{通計単位数}}$$
 とする。

実習、演習、体験学習、SGD (small group discussion)、PBL (problem based learning)、ロールプレイ、e-learning については全出席を原則とする。

2. 薬学共用試験と病院・薬局実習

5 年次に開講される病院実習（2.5 ヶ月）・薬局実習（2.5 ヶ月）を履修することができるのは、薬学共用試験に合格した者のみである。

薬学共用試験は医療現場で実習を行うだけの能力に達しているかを確認するためのもので、知識を問

う CBT (computer based test) と技能・態度を評価する OSCE (objective structured clinical examination) の 2 種類があり、この両方に合格した者のみが医療現場での実務実習「病院・薬局実習」を履修することができる。

3. 卒業要件

卒業するためには、6 年以上在学し、基礎教育科目及び専門教育科目について次の表に定める単位を修得しなければならない。(岐阜薬科大学学則第 36 条)

(両コース共通)

基礎教育科目	専門教育科目	合計
32 単位	154 単位	186 単位

4. 薬学教育モデル・コア・カリキュラムと学修目標及び学修事項

卒業時までには学生が身に付けておくべき必須の能力(知識・技能・態度)を示した「薬学教育モデル・コア・カリキュラム(以下、「コア・カリキュラム」)」には、学修目標及び学修事項が記載されている。

学修目標とは、コア・カリキュラムの本体の部分に当たり、個別の知識や技能を概念的に把握し体系化して理解すること、知識や技能を活用して判断し行動することを示したものである。

学修事項とは、学生が学修目標に到達するために必要と考えられる知識や技能、行為等が記載されている。

シラバスでは授業科目ごとに学修目標及び学修事項を設定しており、対応する番号等を記載している。また、本学独自のアドバンストカリキュラムの学修事項については、各科目内に『▶』で示してある。

5. シラバスの見方

6 年間で開講される基礎教育科目及び専門教育科目は、次ページの履修課程表にまとめてある。科目ごとの授業のシラバスはオンライン上で公開されている。複数の教員・研究室が担当する科目の場合、「代表教員」と記載されている。

別表第 1

基礎教育科目履修課程表

区分		授業科目		標準履修学年及び単位数			
				1回生		2回生	
				前期	後期	前期	後期
基礎教育科目	自然科学系	一般化学	必修	2			
		数学	必修	2			
		物理学	選A	2			
		無機化学	必修	2			
		生物学	選A	2			
		統計学	必修		2		
		コンソーシアム科目Ⅰ	選C				2
	人文・社会科学系	コミュニケーション論	必修	2			
		生命倫理学	必修			2	
		法学	選B	2			
		経済学	選B	2			
		文学	選B	2			
		心理学	選B		2		
		哲学	選C			2	
		社会学	選C			2	
	コンソーシアム科目Ⅱ	選C				2	
	外国語	実用英語Ⅰ	必修	1			
		実用英語Ⅱ	必修		1		
		実用英語Ⅲ	必修			1	
		英語会話Ⅰ	必修	1			
		英語会話Ⅱ	必修		1		
		英語会話Ⅲ	必修			1	
	第二外国語	ドイツ語Ⅰ	選D	1			
		ドイツ語Ⅱ	選D		1		
		スペイン語Ⅰ	選D	1			
		スペイン語Ⅱ	選D		1		
		中国語Ⅰ	選D	1			
		中国語Ⅱ	選D		1		
	体育・保健	健康・スポーツ実習Ⅰ	必修	2			
		健康・スポーツ科学	選B		2		
		健康・スポーツ実習Ⅱ	選C			2	
小計		講義	必修	10	4	4	
		講義	選択	13	7	4	4
		実習	必修		2		
		実習	選択				2
基礎教育科目の合計				23	13	8	6

- 注1. 選Aの2科目のうち、高等学校で履修していない科目を、1科目選択すること。
2. 選Bの5科目のうち、2科目選択すること。
3. 選Cの5科目のうち、2科目選択すること。ただし、コンソーシアム科目を選択する場合は、ⅠまたはⅡのいずれかを履修すること。
4. 選Dの6科目のうち、同一言語の科目を、2科目選択すること。

別表第 2

専門教育科目履修課程表

区分	授業科目		標準履修学年及び単位数											
			1回生		2回生		3回生		4回生		5回生		6回生	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎専門教育科目	薬学一般	薬学概論	必修	2										
		早期体験実習	必修	1										
		薬学基礎実習	必修		1									
		薬学英語Ⅰ	必修			2								
		薬学英語Ⅱ	必修			2								
		キャリア形成学Ⅰ	必修			1								
		キャリア形成学Ⅱ	必修			1								
		プレゼンテーション演習	必修			0.5								
		先端医療学	必修					2						
		医療制度論	必修					2						
		薬事法規	必修						2					
	有機化学系	有機化学Ⅰ	必修	2										
		有機化学Ⅱ	必修		2									
		有機化学演習	必修			1								
		有機化学実習	必修			1								
		有機合成化学	選E				2							
		薬用植物学	必修	2										
		生薬学	必修		2									
		薬用資源学	必修				2							
		生薬学実習	必修			1								
	物理化学系	分析化学	必修	2										
		薬品分析化学	必修		2									
		分析化学実習	必修			1								
		物理化学Ⅰ	必修		2									
		物理化学Ⅱ	必修			2								
		放射化学	必修			2								
		物理化学系実習	必修			1								
		物理化学系演習	必修			1								
	生物化学系	生化学Ⅰ	必修		2									
		生化学Ⅱ	必修			2								
		分子生物学	必修		2									
		細胞生物学	必修			2								
		生物化学演習	必修			1								
		生物化学実習	必修			1								
		微生物学	必修			2								
		免疫学	必修			2								
		感染制御学実習	必修				0.5							
	衛生薬学系	衛生化学Ⅰ	必修			2								
		衛生化学Ⅱ	必修				2							
		公衆衛生学	必修				2							
		衛生薬学実習	必修				0.5							
	情報系	情報処理基礎演習	必修		2									
		医薬品情報学	必修				2							
		臨床統計解析学	必修					2						
		臨床データ解析演習	選F					1						
		ドラッグデザイン演習	選F					1						

(この表は次ページに続く)

区分			授業科目		標準履修学年及び単位数											
					1回生		2回生		3回生		4回生		5回生		6回生	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
応用専門教育科目	医療基礎薬学系	解剖学	必修		2											
		生理学	必修			2										
		薬理学Ⅰ	必修				2									
		薬理学Ⅱ	必修					2								
		薬理学実習	必修					0.5								
		化学療法学	必修					2								
		医薬品化学	必修					2								
		医療心理学	必修							2						
		製剤学Ⅰ	必修				2									
		製剤学Ⅱ	必修					2								
		製剤学実習	必修					0.5								
		病態・薬物治療学Ⅰ	必修					2								
		生物薬剤学	必修						2							
		薬物動態学	必修					2								
		薬物動態学実習	必修					0.5								
		薬効解析学実習	必修					0.5								
		分子病態学	選E						2							
	医療専門薬学系	病態・薬物治療学Ⅱ	必修						2							
		病態・薬物治療学Ⅲ	必修							2						
		臨床腫瘍薬学	必修						2							
		病態・薬物治療学Ⅳ	必修							2						
		総合臨床薬学	必修								5					
		病院・薬局実習	必修									20				
		臨床薬学総論	選L											2		
		薬学実践実習	選L										4			
	医療薬学コース	代替医療論	選E						2							
		香粧品健康学	選G							2						
		医療経済論	選G							2						
		総合医療薬学演習	選H					0.5								
		アドバンスト医療薬学Ⅰ	選Ⅰ											2		
	創薬育薬コース	アドバンスト医療薬学Ⅱ	選Ⅰ								2					
		高分子化学	選J							2						
		創薬学	選J							2						
		医薬品開発学	選J							2						
		総合創薬育薬演習	選H						0.5							
		アドバンスト創薬育薬学Ⅰ	選K								2					
		アドバンスト創薬育薬学Ⅱ	選K								2					
	総合薬学演習	必修													3	
	特別実習	必修								13						
小計	講義	必修	6	14	12	13	19	14	10					2		
	講義	選択						6								
	講義（医療薬学コース）	選択							4					2	2	
	講義（創薬育薬コース）	選択							6						4	
	演習	必修		2		3.5									3	
	演習（医療薬学コース）	選択						0.5	1							
	演習（創薬育薬コース）	選択						0.5	1							
	実習	必修		2	3	2	3				5		20		13	
	実習	選択												4		
基礎・応用専門教育科目の合計			6	18	15	18.5	22	21	22	5	0	20	8	22		

- 注1. 3回生後期から、医療薬学コースまたは創薬育薬コースのいずれかのコースを選択する。
2. 選Eの3科目のうち、1科目選択すること。
3. 選Lの2科目のうち、1科目選択すること。ただし、臨床薬学総論を選択した場合、医療薬学コースは選Iの2科目のうち1科目、創薬育薬コースは選Kの2科目のうち1科目選択すること。
4. 医療薬学コースは、選Gの2科目のうち、1科目を選択すること。
5. 創薬育薬コースは、選Jの3科目のうち、1科目を選択すること。
6. 選Hの2科目のうち、所属コースの1科目を選択すること。
7. 選Fの2科目のうち、医療薬学コースは臨床データ解析演習を、創薬育薬コースはドラッグデザイン演習を選択すること。

実務家教員一覧

○吉村 知哲：病院（35 年）

病院における薬剤師業務の経験を活かし、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得することができるように講義および症例検討・PBLを行う。

○中村 光浩：病院（14 年）、薬局（4 年）

病院でのチーム医療、薬品試験、院内製剤関連業務、並びに、薬局における地域医療の経験を活かし、薬剤師の業務の講義・実習を行う。

○林 秀樹：病院（13 年）、薬局（2 年）

多職種での連携・情報共有や、患者に対する安全で有効な薬物療法の提供のために必要な知識と技能および態度を修得できるよう臨床経験を活かした講義・演習を行う。

○井口 和弘：薬局（11 年）

薬局における薬剤師業務の経験を活かし、薬局での実習中に学んで欲しい薬剤師の業務やそのプロセスの具体的な実践例を示す。

○野口 義紘：病院（10 年）、薬局（11 年）

病院・薬局における薬剤師業務の経験を活かし、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得することができるように講義および症例検討・PBLを行う。

○小林 亮：病院（12 年）

病院および薬局における薬剤師業務の経験を活かし、安全かつ効果的な薬物療法の実践、チーム医療への参画のための基本的な事項を修得できるように講義・実習を行う。

○伊野 陽子：病院（13 年）、薬局（10 年）

病院・薬局における薬剤師業務の経験を活かし、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得することができるように講義および症例検討・PBLを行う。

○長内 理大：病院（5 年）、薬局（6 年）

病院・薬局における薬剤師業務の経験を活かし、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得することができるように講義および症例検討・PBLを行う。

○山下 修司：薬局（16 年）

地域保健医療への参画を体験してもらえよう他教員と連携しながら講義・演習を行う。また薬局での業務経験を活かし、薬剤師として業務を行う上での必要な知識および技術を習得できるように講義・演習を行う。

○玉木 啓文：薬局（9 年）

薬局における薬剤師業務の経験を活かし、セルフメディケーションや健康サポート薬局など、薬局に求められる地域や病院との連携、地域包括ケアへの参画など、薬剤師業務に必要な知識・技能を習得できるように実習を行う。

実務家教員が担当する科目一覧

(令和7年度)

授業科目		標準履修学年及び単位数												合計
		1回生		2回生		3回生		4回生		5回生		6回生		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
早期体験実習	必修	1												1
先端医療学	必修						2							2
医療制度論	必修						2							2
医薬品情報学	必修						2							2
臨床統計解析学	必修							2						2
臨床データ解析演習	選F							1						1
化学療法学	必修					2								2
医療心理学	必修							2						2
臨床腫瘍薬学	必修						2							2
総合臨床薬学	必修								5					5
病院・薬局実習	必修									20				20
臨床薬学総論	選L											2		2
薬学実践実習	選L										4			4
医療経済論	選G							2						2
アドバンスト医療薬学Ⅰ	選Ⅰ											2		2
合計		1		0	0	2	8	7	5	24		4	0	51